

改定の背景

千葉市景観計画は、景観法に基づき景観形成の目標を掲げ、市民・事業者と市の協働により、魅力ある景観づくりの施策を展開するために策定した、景観形成に関するマスタープランです。

策定から10年以上が経過し、近年は夜間景観の創出や公共空間の利活用など、新たな取組みが進められているほか、本市の景観に対する市民意識も変化してきていることから、これまでの本市の景観形成のテーマである「うみ・まち・さとの魅力を活かした ちばの景観づくり」を継承しつつ、それらを踏まえた計画へ改定します。

1 景観特性について

- 河川周辺の景観特性の変化について追記します
 - ・ 郊外を流れる上・中流部と、市街地を流れる下流部で景観特性が大きく異なる
 - ・ 今後、保全・活用をより進めていきたいエリア
- 景観特性の項目に「モノレールの景観」を追加します
 - ・ モノレールは視点場としても、視対象としても特徴的な要素
 - ・ アンケート結果においても「千葉市のシンボリック景観」として多く記述



▲花見川周辺の緑豊かな景観 (景観特性⑥)



▲マクハリイルミ (夜間景観) (景観特性⑦)

8つの景観特性 (現計画)	
①	長い海岸線がつくる海の景観や海際の市街地の景観
②	多様な表情を持つ内陸部の市街地の景観
③	千葉市の顔となる都心の景観
④	緑と水辺、谷津が広がる田園の景観
⑤	多くの人の目にふれる幹線道路沿道の景観
⑥	斜面林や農地と一体となった河川の景観
⑦	時間の移り変わりを活かした景観や歴史を伝える景観
⑧	市民や団体を主体とした活動や取り組みによる景観

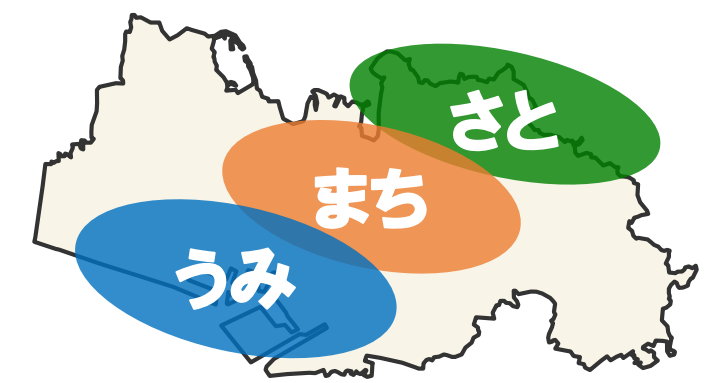
9つの景観特性 (改定案)	
①	長い海岸線がつくる海の景観や海際の市街地の景観
②	多様な表情を持つ内陸部の市街地の景観
③	千葉市の顔となる都心の景観
④	緑と水辺、谷津が広がる田園の景観
⑤	多くの人の目にふれる幹線道路沿道の景観
⑥	表情豊かな河川周辺の景観
⑦	時の流れを伝える景観
⑧	市民や団体を主体とした活動や取り組みによる景観
⑨	モノレールが結ぶ上空と地上の景観



▲モノレールが走る上空の景観 (景観特性⑨)

2 景観形成のテーマと目標

○テーマ、目標はこれまでの計画を継承



目標1
うみにふさわしい景観形成

- 海を近づけ、海を身近に感じさせる
- 海際を魅力的にする
- 海からの景観を整える

目標2
まちの魅力を引き立てる景観形成

- 地域の特性を活かしたまとまりのある街並み景観をつくる
- 千葉市のシンボルとなる景観をつくる
- まちの身近な拠点景観をつくる
- まちをつなぐ快適な景観の軸をつくる
- 人が快適で憩うことができる景観をつくる

目標3
さとや緑・水・地形を大切に景観形成

- 緑の景観を保全・育成する
- 水辺の景観を保全・活用する
- 地形の起伏を保全・活用する
- 良好な緑や水辺の景観をつくる
- 生態系に配慮する

目標4
時をきざむ景観形成

- 時の中の景観をつくる
- 季節の移り変わりを活かした景観をつくる
- 歴史のある景観を継承する
- 時とともに豊かになる景観をつくる
- 新しいまちの景観資源を育成する

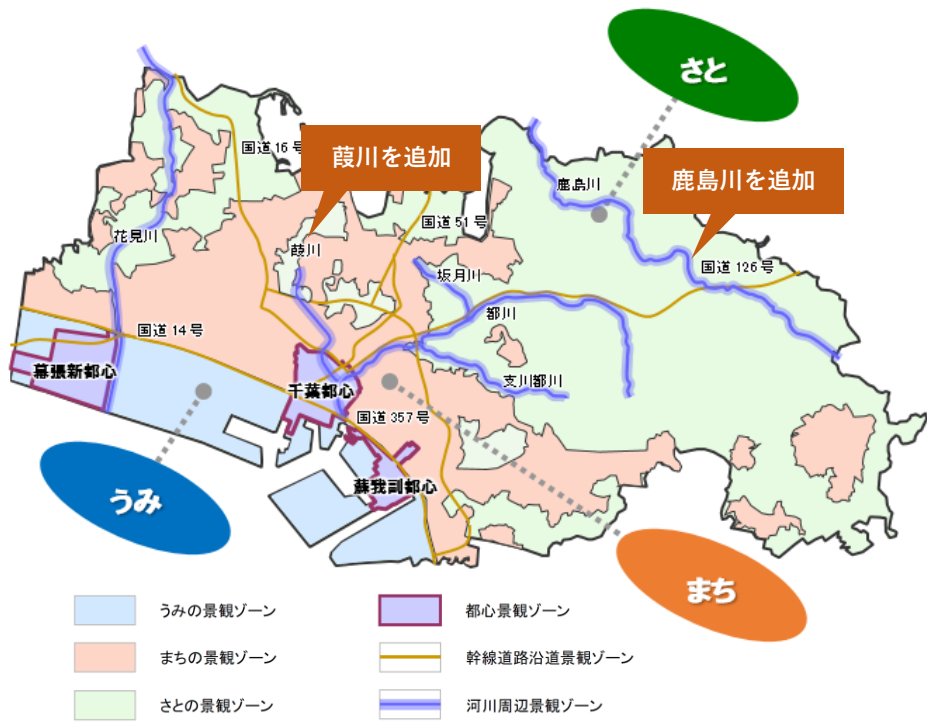
目標5
市民・事業者・市が育む景観形成

- 市民が身近に感じる景観をつくる
- 市民・事業者と市によるパートナーシップを確立する
- 優れた景観を生み出す仕組みを整える

3 景観ゾーンについて

○河川周辺景観ゾーンに葭川・鹿島川を追加します

- ・ 関連計画との整合性等の観点から、河川周辺景観ゾーンに葭川、鹿島川を追加し、都川、花見川と同様に取り扱う



▲景観ゾーン区分図

4 景観形成の誘導

1) 景観形成の方針（配慮指針）に新たな視点を追加します

○夜間景観の形成

- 工場夜景やイルミネーション等、夜間における魅力的な景観が形成されているほか、ナイトタイムエコノミーの推進による夜の都市空間づくりが行われている

○居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成

- 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による都市の再生を図るため、多様な価値観・ライフスタイルを実現できる公共空間の利活用の可能性について検討を進めている
- 公共空間（オープンスペース）を活用した、ゆとりある都市空間の形成や柔軟性のあるまちづくりへのニーズが高まっている



▲ 臨海部の工場夜景

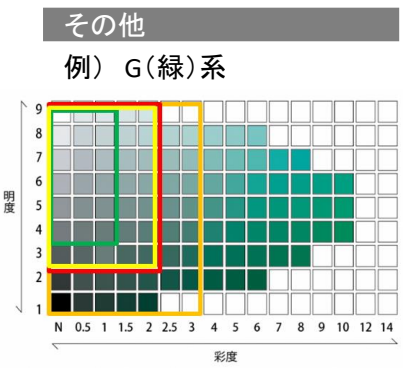
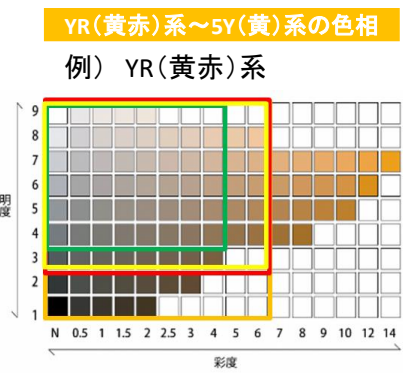
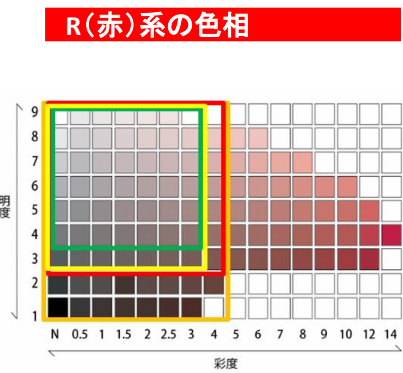
▲ 千葉駅西口でのテラス営業

▲ パラソルギャラリー

2) よりきめ細やかな色彩基準を設けます（外壁、屋根等の基調色となる色彩）

同じゾーン内でも用途地域が異なると景観の様子も異なることから、これまでのような一律の基準ではなく、次のとおり色彩基準を設定する。

- ①うみ・まちゾーン（商業・業務系／工業・物流系） ～都心の風格・商業地の賑わいの創出～
- ②うみ・まちゾーン（住居系） ～落ち着いた住環境～
- ③さとゾーン（市街化調整区域） ～自然景観の保全～



▲図 色彩基準範囲（現計画・改定案）

※建築物の見付け面積の5分の1未満については、アクセント色を使用可能

現計画	うみ・まち・さと
改定案	うみ・まち(①商・工)
	うみ・まち(②住居)
	さと(③調整区域)

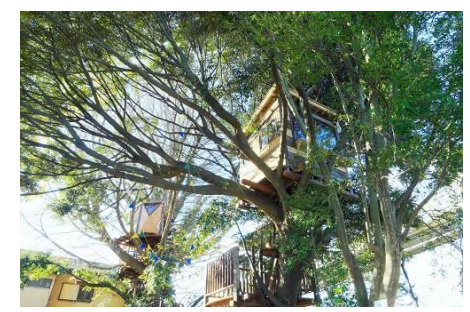
5 読んで楽しめる計画へ

○景観への意識向上のため、市民が読んで楽しめる計画を目指します

- 主な景観箇所がわかるマップの掲載
- 千葉の歴史や景観に関するコラムの掲載
- 過去の都市文化賞受賞作品の掲載



▲ Zozo本社屋 (2021年都市文化賞グランプリ)



▲ 椿森コムナ (2019年都市文化賞グランプリ)

コラム 「千葉市の都市アイデンティティ」

千葉市では、千葉市の歴史や魅力を再確認するために、『加曾利貝塚』『オオガハス』『千葉氏』『海辺』の4つの地域資源を起点として、千葉市らしい都市アイデンティティの確立を目指しており、平成28年に都市アイデンティティ戦略プランを策定しております。

加曾利貝塚は、8字形をした日本最大級の貝塚です。加曾利貝塚に縄文人が住み始めたのは今から7,000年前。巨大な貝塚ができたのは今から約5,000年前の縄文時代中期と言われており、それから2,000年もの間、繁栄が続ききました。

加曾利貝塚・・・日本最大級の貝塚・縄文人の生活の証

オオガハスは、世界最古の花と言われています。昭和26(1951)年、東京大学検見川厚生農場で発掘された古代ハスの実を植物学者大賀一郎博士がよみがえらせた。発掘された実は、今から約2,000年前のものと言われています。

オオガハス・・・古代のロマンを秘めた世界最古の花

千葉氏は桓武天皇の血を引く関東の名族です。平安時代後期の大治元(1126)年に千葉常重(つねしげ)が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移したことにより、本市の都市としての歴史が始まったと言われています。

千葉氏・・・千葉市の礎を築いた一族

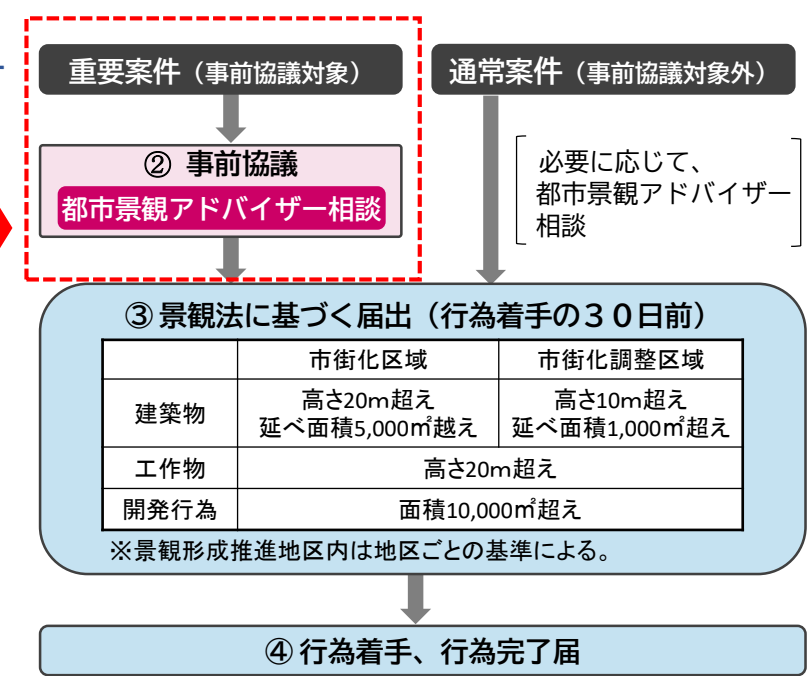
千葉市の人工海浜は日本一の総延長を誇ります。いなげの浜・検見川の浜・帯張の浜の3つの人工海浜は総延長4.3kmに及びます。昔も今も人々の憩いの場であり、本市ならではのにぎわいを創出しています。

海辺・・・海辺とまちが調和するアーバンビーチ

6 事前協議制度について

○事前協議の仕組みを構築します

重要な拠点等まちづくりの重要なエリアにおける一定の規模の行為など、より早い段階から協議が必要な案件については、景観法に基づく届出の前に市と事業者等が事前協議を行う仕組みを構築する。



▲図 届出手続きの流れ（イメージ）